科目名	初等音楽Ⅰ		担当教員	荒木　善子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE102
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽の基礎力を付ける。小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論が理解でき、小学校歌唱共通教材の中から３曲以上をピアノで演奏することができる。				
授業の概要	テキストに従い、音楽理論と小学校歌唱共通教材について学ぶ。各学年の共通教材を演奏する。互いの演奏や取り組みを、ペアあるいはグループでチェックする。				

授業計画	
第1回	教科指導のための音楽理論(1)　五線、音部記号、音名 教材研究(1)　低学年の共通教材①
第2回	教科指導のための音楽理論(2)　変化記号、音符、休符 教材研究(2)　低学年の共通教材②
第3回	教科指導のための音楽理論(3)　拍子とリズム① 教材研究(3)　低学年の共通教材③
第4回	教科指導のための音楽理論(4)　拍子とリズム② 教材研究(4)　低学年の共通教材④
第5回	教科指導のための音楽理論(5)　楽譜の様々な記号 教材研究(5)　中学年の共通教材①
第6回	教科指導のための音楽理論(6)　長音階 教材研究(6)　中学年の共通教材②
第7回	教科指導のための音楽理論(7)　調号 教材研究(7)　中学年の共通教材③
第8回	教科指導のための音楽理論(8)　短音階 教材研究(8)　中学年の共通教材④
第9回	教科指導のための音楽理論(9)　三和音 教材研究(9)　高学年の共通教材①
第10回	教科指導のための音楽理論(10)　コードネーム 教材研究(10)　高学年の共通教材②
第11回	教科指導のための音楽理論(11)　主要三和音と属七 教材研究(11)　高学年の共通教材③
第12回	教科指導のための音楽理論(12)　転回形 教材研究(12)　高学年の共通教材④
第13回	音楽理論の確認試験や実技発表のための準備
第14回	音楽理論の確認試験と解説
第15回	実技発表及び総括

事前学修	0.5時間	第1～12回の授業で行う音楽理論の箇所を読んでおく。毎回の授業で取り上げる曲を準備しておく。第13～15回は音楽理論の試験・実技発表の対策をしておく。
事後学修	0.5時間	毎回の授業で教授された音楽理論の内容を整理し、その項目の練習問題を解いておく。毎回の授業で取り上げた曲を教授された内容に基づいて練習し、実技チェックを受ける。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの学習課題が分かるように、個々に実技チェックを実施し、フィードバックする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技チェックや授業への取り組み、および発表において基本的な演奏技能や表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	音楽理論の確認試験を実施し、小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論を修得できたかを評価する。

補足事項	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
読める，弾ける，歌える　楽典＆ドリル　改訂版　～小学校歌唱共通教材～	村田睦美・小見山純一・深貝美子	（株）三恵社	978-4-86487-851-7	なし
小学生の音楽１～６	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	（株）教育芸術社	978-4-87788-984-5 他	なし

参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)

科目名	初等音楽Ⅰ		担当教員	小見山　純一	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE102
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽の基礎力を付ける。小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論が理解でき、小学校歌唱共通教材の中から３曲以上をピアノで演奏することができる。				
授業の概要	テキストに従い、音楽理論と小学校歌唱共通教材について学ぶ。各学年の共通教材を演奏する。互いの演奏や取り組みを、ペアあるいはグループでチェックする。				

授業計画	
第1回	教科指導のための音楽理論(1)　五線、音部記号、音名 教材研究(1)　低学年の共通教材①
第2回	教科指導のための音楽理論(2)　変化記号、音符、休符 教材研究(2)　低学年の共通教材②
第3回	教科指導のための音楽理論(3)　拍子とリズム① 教材研究(3)　低学年の共通教材③
第4回	教科指導のための音楽理論(4)　拍子とリズム② 教材研究(4)　低学年の共通教材④
第5回	教科指導のための音楽理論(5)　楽譜の様々な記号 教材研究(5)　中学年の共通教材①
第6回	教科指導のための音楽理論(6)　長音階 教材研究(6)　中学年の共通教材②
第7回	教科指導のための音楽理論(7)　調号 教材研究(7)　中学年の共通教材③
第8回	教科指導のための音楽理論(8)　短音階 教材研究(8)　中学年の共通教材④
第9回	教科指導のための音楽理論(9)　三和音 教材研究(9)　高学年の共通教材①
第10回	教科指導のための音楽理論(10)　コードネーム 教材研究(10)　高学年の共通教材②
第11回	教科指導のための音楽理論(11)　主要三和音と属七 教材研究(11)　高学年の共通教材③
第12回	教科指導のための音楽理論(12)　転回形 教材研究(12)　高学年の共通教材④
第13回	音楽理論の確認試験や実技発表のための準備
第14回	音楽理論の確認試験と解説
第15回	実技発表及び総括

事前学修	0.5時間	第1～12回の授業で行う音楽理論の箇所を読んでおく。毎回の授業で取り上げる曲を準備しておく。第13～15回は音楽理論の試験・実技発表の対策をしておく。
事後学修	0.5時間	毎回の授業で教授された音楽理論の内容を整理し、その項目の練習問題を解いておく。毎回の授業で取り上げた曲を教授された内容に基づいて練習し、実技チェックを受ける。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの学習課題が分かるように、個々に実技チェックを実施し、フィードバックする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技チェックや授業への取り組み、および発表において基本的な演奏技能や表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	音楽理論の確認試験を実施し、小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論を修得できたかを評価する。

補足事項	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
読める，弾ける，歌える　楽典＆ドリル　改訂版　～小学校歌唱共通教材～	村田睦美・小見山純一・深貝美子	（株）三恵社	978-4-86487-851-7	なし
小学生の音楽１～６	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	（株）教育芸術社	978-4-87788-984-5 他	なし

参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)

科目名	初等音楽Ⅰ		担当教員	杉本　俊	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE102
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽の基礎力を付ける。小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論が理解でき、小学校歌唱共通教材の中から３曲以上をピアノで演奏することができる。				
授業の概要	テキストに従い、音楽理論と小学校歌唱共通教材について学ぶ。各学年の共通教材を演奏する。互いの演奏や取り組みを、ペアあるいはグループでチェックする。				

授業計画	
第1回	教科指導のための音楽理論(1)　五線、音部記号、音名 教材研究(1)　低学年の共通教材①
第2回	教科指導のための音楽理論(2)　変化記号、音符、休符 教材研究(2)　低学年の共通教材②
第3回	教科指導のための音楽理論(3)　拍子とリズム① 教材研究(3)　低学年の共通教材③
第4回	教科指導のための音楽理論(4)　拍子とリズム② 教材研究(4)　低学年の共通教材④
第5回	教科指導のための音楽理論(5)　楽譜の様々な記号 教材研究(5)　中学年の共通教材①
第6回	教科指導のための音楽理論(6)　長音階 教材研究(6)　中学年の共通教材②
第7回	教科指導のための音楽理論(7)　調号 教材研究(7)　中学年の共通教材③
第8回	教科指導のための音楽理論(8)　短音階 教材研究(8)　中学年の共通教材④
第9回	教科指導のための音楽理論(9)　三和音 教材研究(9)　高学年の共通教材①
第10回	教科指導のための音楽理論(10)　コードネーム 教材研究(10)　高学年の共通教材②
第11回	教科指導のための音楽理論(11)　主要三和音と属七 教材研究(11)　高学年の共通教材③
第12回	教科指導のための音楽理論(12)　転回形 教材研究(12)　高学年の共通教材④
第13回	音楽理論の確認試験や実技発表のための準備
第14回	音楽理論の確認試験と解説
第15回	実技発表及び総括

事前学修	0.5時間	第1～12回の授業で行う音楽理論の箇所を読んでおく。毎回の授業で取り上げる曲を準備しておく。第13～15回は音楽理論の試験・実技発表の対策をしておく。
事後学修	0.5時間	毎回の授業で教授された音楽理論の内容を整理し、その項目の練習問題を解いておく。毎回の授業で取り上げた曲を教授された内容に基づいて練習し、実技チェックを受ける。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの学習課題が分かるように、個々に実技チェックを実施し、フィードバックする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技チェックや授業への取り組み、および発表において基本的な演奏技能や表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	音楽理論の確認試験を実施し、小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論を修得できたかを評価する。

補足事項	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
読める，弾ける，歌える　楽典＆ドリル　改訂版　～小学校歌唱共通教材～	村田睦美・小見山純一・深貝美子	（株）三恵社	978-4-86487-851-7	なし
小学生の音楽１～６	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	（株）教育芸術社	978-4-87788-984-5 他	なし

参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)

科目名	初等音楽Ⅰ		担当教員	高木　彩也子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE102
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽の基礎力を付ける。小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論が理解でき、小学校歌唱共通教材の中から３曲以上をピアノで演奏することができる。				
授業の概要	テキストに従い、音楽理論と小学校歌唱共通教材について学ぶ。各学年の共通教材を演奏する。互いの演奏や取り組みを、ペアあるいはグループでチェックする。				

授業計画	
第1回	教科指導のための音楽理論(1)　五線、音部記号、音名 教材研究(1)　低学年の共通教材①
第2回	教科指導のための音楽理論(2)　変化記号、音符、休符 教材研究(2)　低学年の共通教材②
第3回	教科指導のための音楽理論(3)　拍子とリズム① 教材研究(3)　低学年の共通教材③
第4回	教科指導のための音楽理論(4)　拍子とリズム② 教材研究(4)　低学年の共通教材④
第5回	教科指導のための音楽理論(5)　楽譜の様々な記号 教材研究(5)　中学年の共通教材①
第6回	教科指導のための音楽理論(6)　長音階 教材研究(6)　中学年の共通教材②
第7回	教科指導のための音楽理論(7)　調号 教材研究(7)　中学年の共通教材③
第8回	教科指導のための音楽理論(8)　短音階 教材研究(8)　中学年の共通教材④
第9回	教科指導のための音楽理論(9)　三和音 教材研究(9)　高学年の共通教材①
第10回	教科指導のための音楽理論(10)　コードネーム 教材研究(10)　高学年の共通教材②
第11回	教科指導のための音楽理論(11)　主要三和音と属七 教材研究(11)　高学年の共通教材③
第12回	教科指導のための音楽理論(12)　転回形 教材研究(12)　高学年の共通教材④
第13回	音楽理論の確認試験や実技発表のための準備
第14回	音楽理論の確認試験と解説
第15回	実技発表及び総括

事前学修	0.5時間	第1～12回の授業で行う音楽理論の箇所を読んでおく。毎回の授業で取り上げる曲を準備しておく。第13～15回は音楽理論の試験・実技発表の対策をしておく。
事後学修	0.5時間	毎回の授業で教授された音楽理論の内容を整理し、その項目の練習問題を解いておく。毎回の授業で取り上げた曲を教授された内容に基づいて練習し、実技チェックを受ける。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの学習課題が分かるように、個々に実技チェックを実施し、フィードバックする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技チェックや授業への取り組み、および発表において基本的な演奏技能や表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	音楽理論の確認試験を実施し、小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論を修得できたかを評価する。

補足事項	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
読める，弾ける，歌える　楽典＆ドリル　改訂版　～小学校歌唱共通教材～	村田睦美・小見山純一・深貝美子	（株）三恵社	978-4-86487-851-7	なし
小学生の音楽１～６	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	（株）教育芸術社	978-4-87788-984-5 他	なし

参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)

科目名	初等音楽Ⅰ		担当教員	村田　睦美	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE102
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽の基礎力を付ける。小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論が理解でき、小学校歌唱共通教材の中から３曲以上をピアノで演奏することができる。				
授業の概要	テキストに従い、音楽理論と小学校歌唱共通教材について学ぶ。各学年の共通教材を演奏する。互いの演奏や取り組みを、ペアあるいはグループでチェックする。				

授業計画	
第1回	教科指導のための音楽理論(1)　五線、音部記号、音名 教材研究(1)　低学年の共通教材①
第2回	教科指導のための音楽理論(2)　変化記号、音符、休符 教材研究(2)　低学年の共通教材②
第3回	教科指導のための音楽理論(3)　拍子とリズム① 教材研究(3)　低学年の共通教材③
第4回	教科指導のための音楽理論(4)　拍子とリズム② 教材研究(4)　低学年の共通教材④
第5回	教科指導のための音楽理論(5)　楽譜の様々な記号 教材研究(5)　中学年の共通教材①
第6回	教科指導のための音楽理論(6)　長音階 教材研究(6)　中学年の共通教材②
第7回	教科指導のための音楽理論(7)　調号 教材研究(7)　中学年の共通教材③
第8回	教科指導のための音楽理論(8)　短音階 教材研究(8)　中学年の共通教材④
第9回	教科指導のための音楽理論(9)　三和音 教材研究(9)　高学年の共通教材①
第10回	教科指導のための音楽理論(10)　コードネーム 教材研究(10)　高学年の共通教材②
第11回	教科指導のための音楽理論(11)　主要三和音と属七 教材研究(11)　高学年の共通教材③
第12回	教科指導のための音楽理論(12)　転回形 教材研究(12)　高学年の共通教材④
第13回	音楽理論の確認試験や実技発表のための準備
第14回	音楽理論の確認試験と解説
第15回	実技発表及び総括

事前学修	0.5時間	第1～12回の授業で行う音楽理論の箇所を読んでおく。毎回の授業で取り上げる曲を準備しておく。第13～15回は音楽理論の試験・実技発表の対策をしておく。
事後学修	0.5時間	毎回の授業で教授された音楽理論の内容を整理し、その項目の練習問題を解いておく。毎回の授業で取り上げた曲を教授された内容に基づいて練習し、実技チェックを受ける。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの学習課題が分かるように、個々に実技チェックを実施し、フィードバックする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技チェックや授業への取り組み、および発表において基本的な演奏技能や表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	音楽理論の確認試験を実施し、小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論を修得できたかを評価する。

補足事項	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
読める，弾ける，歌える　楽典＆ドリル　改訂版　～小学校歌唱共通教材～	村田睦美・小見山純一・深貝美子	（株）三恵社	978-4-86487-851-7	なし
小学生の音楽１～６	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	（株）教育芸術社	978-4-87788-984-5 他	なし

参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)

科目名	初等音楽Ⅰ		担当教員	宮川　左知子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE102
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽の基礎力を付ける。小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論が理解でき、小学校歌唱共通教材の中から３曲以上をピアノで演奏することができる。				
授業の概要	テキストに従い、音楽理論と小学校歌唱共通教材について学ぶ。各学年の共通教材を演奏する。互いの演奏や取り組みを、ペアあるいはグループでチェックする。				

授業計画	
第1回	教科指導のための音楽理論(1)　五線、音部記号、音名 教材研究(1)　低学年の共通教材①
第2回	教科指導のための音楽理論(2)　変化記号、音符、休符 教材研究(2)　低学年の共通教材②
第3回	教科指導のための音楽理論(3)　拍子とリズム① 教材研究(3)　低学年の共通教材③
第4回	教科指導のための音楽理論(4)　拍子とリズム② 教材研究(4)　低学年の共通教材④
第5回	教科指導のための音楽理論(5)　楽譜の様々な記号 教材研究(5)　中学年の共通教材①
第6回	教科指導のための音楽理論(6)　長音階 教材研究(6)　中学年の共通教材②
第7回	教科指導のための音楽理論(7)　調号 教材研究(7)　中学年の共通教材③
第8回	教科指導のための音楽理論(8)　短音階 教材研究(8)　中学年の共通教材④
第9回	教科指導のための音楽理論(9)　三和音 教材研究(9)　高学年の共通教材①
第10回	教科指導のための音楽理論(10)　コードネーム 教材研究(10)　高学年の共通教材②
第11回	教科指導のための音楽理論(11)　主要三和音と属七 教材研究(11)　高学年の共通教材③
第12回	教科指導のための音楽理論(12)　転回形 教材研究(12)　高学年の共通教材④
第13回	音楽理論の確認試験や実技発表のための準備
第14回	音楽理論の確認試験と解説
第15回	実技発表及び総括

事前学修	0.5時間	第1～12回の授業で行う音楽理論の箇所を読んでおく。毎回の授業で取り上げる曲を準備しておく。第13～15回は音楽理論の試験・実技発表の対策をしておく。
事後学修	0.5時間	毎回の授業で教授された音楽理論の内容を整理し、その項目の練習問題を解いておく。毎回の授業で取り上げた曲を教授された内容に基づいて練習し、実技チェックを受ける。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの学習課題が分かるように、個々に実技チェックを実施し、フィードバックする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技チェックや授業への取り組み、および発表において基本的な演奏技能や表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	音楽理論の確認試験を実施し、小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論を修得できたかを評価する。

補足事項	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
読める，弾ける，歌える　楽典＆ドリル　改訂版　～小学校歌唱共通教材～	村田睦美・小見山純一・深貝美子	（株）三恵社	978-4-86487-851-7	なし
小学生の音楽１～６	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	（株）教育芸術社	978-4-87788-984-5 他	なし

参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)

科目名	初等音楽Ⅰ		担当教員	宮川　左知子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE102
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽の基礎力を付ける。小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論が理解でき、小学校歌唱共通教材の中から３曲以上をピアノで演奏することができる。				
授業の概要	テキストに従い、音楽理論と小学校歌唱共通教材について学ぶ。各学年の共通教材を演奏する。互いの演奏や取り組みを、ペアあるいはグループでチェックする。				

授業計画	
第1回	教科指導のための音楽理論(1)　五線、音部記号、音名 教材研究(1)　低学年の共通教材①
第2回	教科指導のための音楽理論(2)　変化記号、音符、休符 教材研究(2)　低学年の共通教材②
第3回	教科指導のための音楽理論(3)　拍子とリズム① 教材研究(3)　低学年の共通教材③
第4回	教科指導のための音楽理論(4)　拍子とリズム② 教材研究(4)　低学年の共通教材④
第5回	教科指導のための音楽理論(5)　楽譜の様々な記号 教材研究(5)　中学年の共通教材①
第6回	教科指導のための音楽理論(6)　長音階 教材研究(6)　中学年の共通教材②
第7回	教科指導のための音楽理論(7)　調号 教材研究(7)　中学年の共通教材③
第8回	教科指導のための音楽理論(8)　短音階 教材研究(8)　中学年の共通教材④
第9回	教科指導のための音楽理論(9)　三和音 教材研究(9)　高学年の共通教材①
第10回	教科指導のための音楽理論(10)　コードネーム 教材研究(10)　高学年の共通教材②
第11回	教科指導のための音楽理論(11)　主要三和音と属七 教材研究(11)　高学年の共通教材③
第12回	教科指導のための音楽理論(12)　転回形 教材研究(12)　高学年の共通教材④
第13回	音楽理論の確認試験や実技発表のための準備
第14回	音楽理論の確認試験と解説
第15回	実技発表及び総括

事前学修	0.5時間	第1～12回の授業で行う音楽理論の箇所を読んでおく。毎回の授業で取り上げる曲を準備しておく。第13～15回は音楽理論の試験・実技発表の対策をしておく。
事後学修	0.5時間	毎回の授業で教授された音楽理論の内容を整理し、その項目の練習問題を解いておく。毎回の授業で取り上げた曲を教授された内容に基づいて練習し、実技チェックを受ける。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの学習課題が分かるように、個々に実技チェックを実施し、フィードバックする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技チェックや授業への取り組み、および発表において基本的な演奏技能や表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	音楽理論の確認試験を実施し、小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論を修得できたかを評価する。

補足事項	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
読める，弾ける，歌える　楽典＆ドリル　改訂版　～小学校歌唱共通教材～	村田睦美・小見山純一・深貝美子	（株）三恵社	978-4-86487-851-7	なし
小学生の音楽１～６	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	（株）教育芸術社	978-4-87788-984-5 他	なし

参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)

科目名	初等音楽Ⅰ		担当教員	鷲見　千鶴子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE102
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽の基礎力を付ける。小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論が理解でき、小学校歌唱共通教材の中から３曲以上をピアノで演奏することができる。				
授業の概要	テキストに従い、音楽理論と小学校歌唱共通教材について学ぶ。各学年の共通教材を演奏する。互いの演奏や取り組みを、ペアあるいはグループでチェックする。				

授業計画	
第1回	教科指導のための音楽理論(1)　五線、音部記号、音名 教材研究(1)　低学年の共通教材①
第2回	教科指導のための音楽理論(2)　変化記号、音符、休符 教材研究(2)　低学年の共通教材②
第3回	教科指導のための音楽理論(3)　拍子とリズム① 教材研究(3)　低学年の共通教材③
第4回	教科指導のための音楽理論(4)　拍子とリズム② 教材研究(4)　低学年の共通教材④
第5回	教科指導のための音楽理論(5)　楽譜の様々な記号 教材研究(5)　中学年の共通教材①
第6回	教科指導のための音楽理論(6)　長音階 教材研究(6)　中学年の共通教材②
第7回	教科指導のための音楽理論(7)　調号 教材研究(7)　中学年の共通教材③
第8回	教科指導のための音楽理論(8)　短音階 教材研究(8)　中学年の共通教材④
第9回	教科指導のための音楽理論(9)　三和音 教材研究(9)　高学年の共通教材①
第10回	教科指導のための音楽理論(10)　コードネーム 教材研究(10)　高学年の共通教材②
第11回	教科指導のための音楽理論(11)　主要三和音と属七 教材研究(11)　高学年の共通教材③
第12回	教科指導のための音楽理論(12)　転回形 教材研究(12)　高学年の共通教材④
第13回	音楽理論の確認試験や実技発表のための準備
第14回	音楽理論の確認試験と解説
第15回	実技発表及び総括

事前学修	0.5時間	第1～12回の授業で行う音楽理論の箇所を読んでおく。毎回の授業で取り上げる曲を準備しておく。第13～15回は音楽理論の試験・実技発表の対策をしておく。
事後学修	0.5時間	毎回の授業で教授された音楽理論の内容を整理し、その項目の練習問題を解いておく。毎回の授業で取り上げた曲を教授された内容に基づいて練習し、実技チェックを受ける。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの学習課題が分かるように、個々に実技チェックを実施し、フィードバックする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技チェックや授業への取り組み、および発表において基本的な演奏技能や表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	音楽理論の確認試験を実施し、小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論を修得できたかを評価する。

補足事項	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
読める，弾ける，歌える　楽典＆ドリル　改訂版　～小学校歌唱共通教材～	村田睦美・小見山純一・深貝美子	（株）三恵社	978-4-86487-851-7	なし
小学生の音楽１～６	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	（株）教育芸術社	978-4-87788-984-5 他	なし

参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)

科目名	初等音楽Ⅰ		担当教員	柴田　恭男	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE102
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽の基礎力を付ける。小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論が理解でき、小学校歌唱共通教材の中から３曲以上をピアノで演奏することができる。				
授業の概要	テキストに従い、音楽理論と小学校歌唱共通教材について学ぶ。各学年の共通教材を演奏する。互いの演奏や取り組みを、ペアあるいはグループでチェックする。				

授業計画	
第1回	教科指導のための音楽理論(1)　五線、音部記号、音名 教材研究(1)　低学年の共通教材①
第2回	教科指導のための音楽理論(2)　変化記号、音符、休符 教材研究(2)　低学年の共通教材②
第3回	教科指導のための音楽理論(3)　拍子とリズム① 教材研究(3)　低学年の共通教材③
第4回	教科指導のための音楽理論(4)　拍子とリズム② 教材研究(4)　低学年の共通教材④
第5回	教科指導のための音楽理論(5)　楽譜の様々な記号 教材研究(5)　中学年の共通教材①
第6回	教科指導のための音楽理論(6)　長音階 教材研究(6)　中学年の共通教材②
第7回	教科指導のための音楽理論(7)　調号 教材研究(7)　中学年の共通教材③
第8回	教科指導のための音楽理論(8)　短音階 教材研究(8)　中学年の共通教材④
第9回	教科指導のための音楽理論(9)　三和音 教材研究(9)　高学年の共通教材①
第10回	教科指導のための音楽理論(10)　コードネーム 教材研究(10)　高学年の共通教材②
第11回	教科指導のための音楽理論(11)　主要三和音と属七 教材研究(11)　高学年の共通教材③
第12回	教科指導のための音楽理論(12)　転回形 教材研究(12)　高学年の共通教材④
第13回	音楽理論の確認試験や実技発表のための準備
第14回	音楽理論の確認試験と解説
第15回	実技発表及び総括

事前学修	0.5時間	第1～12回の授業で行う音楽理論の箇所を読んでおく。毎回の授業で取り上げる曲を準備しておく。第13～15回は音楽理論の試験・実技発表の対策をしておく。
事後学修	0.5時間	毎回の授業で教授された音楽理論の内容を整理し、その項目の練習問題を解いておく。毎回の授業で取り上げた曲を教授された内容に基づいて練習し、実技チェックを受ける。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの学習課題が分かるように、個々に実技チェックを実施し、フィードバックする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	実技チェックや授業への取り組み、および発表において基本的な演奏技能や表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	40%	音楽理論の確認試験を実施し、小学校音楽を指導する上で必要な音楽理論を修得できたかを評価する。

補足事項	

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
読める，弾ける，歌える　楽典＆ドリル　改訂版　～小学校歌唱共通教材～	村田睦美・小見山純一・深貝美子	（株）三恵社	978-4-86487-851-7	なし
小学生の音楽１～６	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	（株）教育芸術社	978-4-87788-984-5 他	なし

参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)

科目名	初等音楽Ⅱ		担当教員	杉山　加保里、柴田　恭男	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE103
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽表現技能力を付ける。 到達目標は、A部門では正しい発声法をつかみ歌うことが出来る。鑑賞の仕方をつかむことが出来る。B部門では、二部形式の創作が出来る。ソプラノリコーダーのアンサンブル（ピアノ伴奏付き）の演奏が出来る。				
授業の概要	音楽の教科書より様々な音楽要素を取り上げる。A部門は【歌唱・鑑賞】、B部門は【創作・器楽】での活動を行う。それらを通して響きあう音楽の喜びを体得する。本授業はオムニバス形式で行う。歌唱・鑑賞・創作・器楽のいずれかにおいて、提出物が期限までに出されなかった場合や試験などを放棄した場合はすべて失格と判定する。				

授業計画	
第1回	A部門歌唱：姿勢と呼吸の仕方。 B部門器楽：リコーダーの復習とコードネームの復習。（A部門担当：杉本、 B部門担当：柴田）
第2回	A部門歌唱：スタッカート唱の仕方。指揮図形の確認と表現。
第3回	A部門歌唱：歌詞に込められた気持ちを感じ取り歌う。歌詞の深意と音楽の繋がりについてグループ毎に読み取り、それらを歌唱表現に生かす工夫をする。その後グループ合唱発表を行い、交流する。＜5・6年 合唱教材より＞第3回から第8回まで継続して取り組む。第8回に合唱発表を行う。
第4回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」を詩の情景や心情を理解し曲想豊かに歌唱する。＜5・6年 共通教材より＞パート毎の譜読と歌唱。
第5回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」＜5・6年 共通教材より＞毎時の発声で掴んだ発声法を元に、グループ毎に目標を定め練習し発表する。各人が発表に対する感想を書きクラスで共有する。
第6回	A部門鑑賞：拍子の違いと旋律、様子を思い浮かべ聴く。
第7回	A部門鑑賞：色々な音色、響きを感じて聴く。
第8回	A部門鑑賞：日本や世界の国々の音楽に親しむ。 歌唱：合唱発表
第9回	B部門創作：楽曲構成要素の解説と動機の創作、更に小楽節の創作から大楽節（一部形式）の創作を行う。
第10回	B部門創作：自作の動機による、一部形式の創作を行う。
第11回	B部門創作：一部形式から二部形式への発展の方法を示し、二部形式の創作を行う。
第12回	B部門創作：二部形式を完成させた後、楽譜としての約束事をもれなく記入し、楽譜を正しく完成させる。（楽譜の提出）
第13回	B部門器楽：教材楽譜の配布と、譜読み等を行う。
第14回	B部門器楽：表現の方向性の統一と、アンサンブルとしての調整を行う。
第15回	B部門器楽：アンサンブルとしてのまとめを行い、発表（試験を兼ねる）を行う。

事前学修	0.5時間	①リコーダー、コードネームの復習。②～⑧各回の＜＞に記載の曲頁を読む。⑤各パートの音を、リコーダーで確認し歌ってくる⑨教科書創作の項を見る。⑩⑪配付プリントに目を通す。 ⑫音楽用語、記号の復習。 ⑬リコーダーの運指の確認。⑭配布楽譜に目を通し運指等の確認。 ⑮表現方法を楽譜で確認練習。
事後学修	0.5時間	①～⑧声作りのため発声を毎日行う。①リコーダー及びコードネームの確認と復習。②指揮の確認。③④⑤各パートくり返し練習。⑥～⑧プリントの読み直し。⑨～⑫毎回指示される次回までの課題の実行。⑬個人パートの譜読みの徹底。⑭アンサンブルの徹底。⑮器楽として行ったアンサンブルへの反省。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	A部門：ポートフォリオを毎時チェックし返却する。B部門：提出作品には注意書きやコメントを記入して返却する。希望者には個々に直接指導を行う。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	A部門：(1)グループ発表に向けた活動および技能10%、(2)ポートフォリオ40%　の完成度により評価する
上記以外の試験・平常点評価	50%	B部門：(1)創作楽譜25%、(2)実技発表25%　の完成度により評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学生の音楽１～6	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	(株)教育芸術社	978-4-87788-816-9	なし
参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)			

科目名	初等音楽Ⅱ		担当教員	杉山　加保里、悪原　至	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE103
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽表現技能力を付ける。 到達目標は、A部門では正しい発声法をつかみ歌うことが出来る。鑑賞の仕方をつかむことが出来る。B部門では、二部形式の創作が出来る。ソプラノリコーダーのアンサンブル（ピアノ伴奏付き）の演奏が出来る。				
授業の概要	音楽の教科書より様々な音楽要素を取り上げる。A部門は【歌唱・鑑賞】、B部門は【創作・器楽】での活動を行う。それらを通して響きあう音楽の喜びを体得する。本授業はオムニバス形式で行う。歌唱・鑑賞・創作・器楽のいずれかにおいて、提出物が期限までに出されなかった場合や試験などを放棄した場合はすべて失格と判定する。				

授業計画	
第1回	A部門歌唱：姿勢と呼吸の仕方。 B部門器楽：リコーダーの復習とコードネームの復習。（A 部門担当：杉山、 B 部門担当：悪原）
第2回	A部門歌唱：スタッカート唱の仕方。指揮図形の確認と表現。
第3回	A部門歌唱：歌詞に込められた気持ちを感じ取り歌う。歌詞の深意と音楽の繋がりについてグループ毎に読み取り、それらを歌唱表現に生かす工夫をする。その後グループ合唱発表を行い、交流する。＜5・6年 合唱教材より＞第3回から第8回まで継続して取り組む。第8回に合唱発表を行う。
第4回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」を詩の情景や心情を理解し曲想豊かに歌唱する。＜5・6年 共通教材より＞パート毎の譜読と歌唱。
第5回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」＜5・６年 共通教材より＞毎時の発声で掴んだ発声法を元に、グループ毎に目標を定め練習し発表する。各人が発表に対する感想を書きクラスで共有する。
第6回	A部門鑑賞：拍子の違いと旋律、様子を思い浮かべ聴く。
第7回	A部門鑑賞：色々な音色、響きを感じて聴く。
第8回	A部門鑑賞：日本や世界の国々の音楽に親しむ。 歌唱：合唱発表
第9回	B部門創作：楽曲構成要素の解説と動機の創作、更に小楽節の創作から大楽節（一部形式）の創作を行う。
第10回	B部門創作：自作の動機による、一部形式の創作を行う。
第11回	B部門創作：一部形式から二部形式への発展の方法を示し、二部形式の創作を行う。
第12回	B部門創作：二部形式を完成させた後、楽譜としての約束事をもれなく記入し、楽譜を正しく完成させる。（楽譜の提出）
第13回	B部門器楽：教材楽譜の配布と、譜読み等を行う。
第14回	B部門器楽：表現の方向性の統一と、アンサンブルとしての調整を行う。
第15回	B部門器楽：アンサンブルとしてのまとめを行い、発表（試験を兼ねる）を行う。

事前学修	0.5時間	①リコーダー、コードネームの復習。②～⑧各回の＜＞に記載の曲頁を読む。⑤各パートの音を、リコーダーで確認し歌ってくる⑨教科書創作の項を見る。⑩⑪配付プリントに目を通す。 ⑫音楽用語、記号の復習。 ⑬リコーダーの運指の確認。⑭配布楽譜に目を通し運指等の確認。 ⑮表現方法を楽譜で確認練習。
事後学修	0.5時間	①～⑧声作りのため発声を毎日行う。①リコーダー及びコードネームの確認と復習。②指揮の確認。③④⑤各パートくり返し練習。⑥～⑧プリントの読み直し。⑨～⑫毎回指示される次回までの課題の実行。⑬個人パートの譜読みの徹底。⑭アンサンブルの徹底。⑮器楽として行ったアンサンブルへの反省。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	A部門：ポートフォリオを毎時チェックし返却する。B部門：提出作品には注意書きやコメントを記入して返却する。希望者には個々に直接指導を行う。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	A部門：(1)グループ発表に向けた活動および技能10%、(2)ポートフォリオ40%　の完成度により評価する
上記以外の試験・平常点評価	50%	B部門：(1)創作楽譜25%、(2)実技発表25%　の完成度により評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学生の音楽１～6	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	(株)教育芸術社	978-4-87788-816-9	なし
参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)			

科目名	初等音楽Ⅱ		担当教員	小見山　純一、高木　彩也子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE103
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽表現技能力を付ける。 到達目標は、A部門では正しい発声法をつかみ歌うことが出来る。鑑賞の仕方をつかむことが出来る。B部門では、二部形式の創作が出来る。ソプラノリコーダーのアンサンブル（ピアノ伴奏付き）の演奏が出来る。				
授業の概要	音楽の教科書より様々な音楽要素を取り上げる。A部門は【歌唱・鑑賞】、B部門は【創作・器楽】での活動を行う。それらを通して響きあう音楽の喜びを体得する。本授業はオムニバス形式で行う。歌唱・鑑賞・創作・器楽のいずれかにおいて、提出物が期限までに出されなかった場合や試験などを放棄した場合はすべて失格と判定する。				

授業計画	
第1回	A部門歌唱：姿勢と呼吸の仕方。 B部門器楽：リコーダーの復習とコードネームの復習。（A 部門担当：高木、 B 部門担当：小見山）
第2回	A部門歌唱：スタッカート唱の仕方。指揮図形の確認と表現。
第3回	A部門歌唱：歌詞に込められた気持ちを感じ取り歌う。歌詞の深意と音楽の繋がりについてグループ毎に読み取り、それらを歌唱表現に生かす工夫をする。その後グループ合唱発表を行い、交流する。＜5・6年 合唱教材より＞第3回から第8回まで継続して取り組む。第8回に合唱発表を行う。
第4回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」を詩の情景や心情を理解し曲想豊かに歌唱する。＜5・6年 共通教材より＞パート毎の譜読と歌唱。
第5回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」＜5・6年 共通教材より＞毎時の発声で掴んだ発声法を元に、グループ毎に目標を定め練習し発表する。各人が発表に対する感想を書きクラスで共有する。
第6回	A部門鑑賞：拍子の違いと旋律、様子を思い浮かべ聴く。
第7回	A部門鑑賞：色々な音色、響きを感じて聴く。
第8回	A部門鑑賞：日本や世界の国々の音楽に親しむ。 歌唱：合唱発表
第9回	B部門創作：楽曲構成要素の解説と動機の創作、更に小楽節の創作から大楽節（一部形式）の創作を行う。
第10回	B部門創作：自作の動機による、一部形式の創作を行う。
第11回	B部門創作：一部形式から二部形式への発展の方法を示し、二部形式の創作を行う。
第12回	B部門創作：二部形式を完成させた後、楽譜としての約束事をもれなく記入し、楽譜を正しく完成させる。（楽譜の提出）
第13回	B部門器楽：教材楽譜の配布と、譜読み等を行う。
第14回	B部門器楽：表現の方向性の統一と、アンサンブルとしての調整を行う。
第15回	B部門器楽：アンサンブルとしてのまとめを行い、発表（試験を兼ねる）を行う。

事前学修	0.5時間	①リコーダー、コードネームの復習。②～⑧各回の＜＞に記載の曲頁を読む。⑤各パートの音を、リコーダーで確認し歌ってくる⑨教科書創作の項を見る。⑩⑪配付プリントに目を通す。 ⑫音楽用語、記号の復習。 ⑬リコーダーの運指の確認。⑭配布楽譜に目を通し運指等の確認。 ⑮表現方法を楽譜で確認練習。
事後学修	0.5時間	①～⑧声作りのため発声を毎日行う。①リコーダー及びコードネームの確認と復習。②指揮の確認。③④⑤各パートくり返し練習。⑥～⑧プリントの読み直し。⑨～⑫毎回指示される次回までの課題の実行。⑬個人パートの譜読みの徹底。⑭アンサンブルの徹底。⑮器楽として行ったアンサンブルへの反省。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	A部門：ポートフォリオを毎時チェックし返却する。B部門：提出作品には注意書きやコメントを記入して返却する。希望者には個々	

	に直接指導を行う。

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	A部門：(1)グループ発表に向けた活動および技能10%、(2)ポートフォリオ40%　の完成度により評価する
上記以外の試験・平常点評価	50%	B部門：(1)創作楽譜25%、(2)実技発表25%　の完成度により評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学生の音楽１～6	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	(株)教育芸術社	978-4-87788-816-9	なし
参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)			

科目名	初等音楽Ⅱ			担当教員	柴田　恭男、杉本　俊	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED3SRE103
期待される学修成果	教科教育　自己形成					
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	音楽表現技能力を付ける。 到達目標は、A部門では正しい発声法をつかみ歌うことが出来る。鑑賞の仕方をつかむことが出来る。B部門では、二部形式の創作が出来る。ソプラノリコーダーのアンサンブル（ピアノ伴奏付き）の演奏が出来る。					
授業の概要	音楽の教科書より様々な音楽要素を取り上げる。A部門は【歌唱・鑑賞】、B部門は【創作・器楽】での活動を行う。それらを通して響きあう音楽の喜びを体得する。本授業はオムニバス形式で行う。歌唱・鑑賞・創作・器楽のいずれかにおいて、提出物が期限までに出されなかった場合や試験などを放棄した場合はすべて失格と判定する。					

授業計画	
第1回	A部門歌唱：姿勢と呼吸の仕方。 B部門器楽：リコーダーの復習とコードネームの復習。（A 部門担当：杉本、 B 部門担当：柴田）
第2回	A部門歌唱：スタッカート唱の仕方。指揮図形の確認と表現。
第3回	A部門歌唱：歌詞に込められた気持ちを感じ取り歌う。歌詞の深意と音楽の繋がりについてグループ毎に読み取り、それらを歌唱表現に生かす工夫をする。その後グループ合唱発表を行い、交流する。＜5・6年 合唱教材より＞第3回から第8回まで継続して取り組む。第8回に合唱発表を行う。
第4回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」を詩の情景や心情を理解し曲想豊かに歌唱する。＜5・6年 共通教材より＞パート毎の譜読と歌唱。
第5回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」＜5・6年 共通教材より＞毎時の発声で掴んだ発声法を元に、グループ毎に目標を定め練習し発表する。各人が発表に対する感想を書きクラスで共有する。
第6回	A部門鑑賞：拍子の違いと旋律、様子を思い浮かべ聴く。
第7回	A部門鑑賞：色々な音色、響きを感じて聴く。
第8回	A部門鑑賞：日本や世界の国々の音楽に親しむ。 歌唱：合唱発表
第9回	B部門創作：楽曲構成要素の解説と動機の創作、更に小楽節の創作から大楽節（一部形式）の創作を行う。
第10回	B部門創作：自作の動機による、一部形式の創作を行う。
第11回	B部門創作：一部形式から二部形式への発展の方法を示し、二部形式の創作を行う。
第12回	B部門創作：二部形式を完成させた後、楽譜としての約束事をもれなく記入し、楽譜を正しく完成させる。（楽譜の提出）
第13回	B部門器楽：教材楽譜の配布と、譜読み等を行う。
第14回	B部門器楽：表現の方向性の統一と、アンサンブルとしての調整を行う。
第15回	B部門器楽：アンサンブルとしてのまとめを行い、発表（試験を兼ねる）を行う。

事前学修	0.5時間	①リコーダー、コードネームの復習。②～⑧各回の＜＞に記載の曲頁を読む。⑤各パートの音を、リコーダーで確認し歌ってくる⑨教科書創作の項を見る。⑩⑪配付プリントに目を通す。 ⑫音楽用語、記号の復習。 ⑬リコーダーの運指の確認。⑭配布楽譜に目を通し運指等の確認。 ⑮表現方法を楽譜で確認練習。
事後学修	0.5時間	①～⑧声作りのため発声を毎日行う。①リコーダー及びコードネームの確認と復習。②指揮の確認。③④⑤各パートくり返し練習。⑥～⑧プリントの読み直し。⑨～⑫毎回指示される次回までの課題の実行。⑬個人パートの譜読みの徹底。⑭アンサンブルの徹底。⑮器楽として行ったアンサンブルへの反省。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	A部門：ポートフォリオを毎時チェックし返却する。B部門：提出作品には注意書きやコメントを記入して返却する。希望者には個々に直接指導を行う。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	A部門：(1)グループ発表に向けた活動および技能10%、(2)ポートフォリオ40%　の完成度により評価する
上記以外の試験・平常点評価	50%	B部門：(1)創作楽譜25%、(2)実技発表25%　の完成度により評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学生の音楽１～6	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	(株)教育芸術社	978-4-87788-816-9	なし
参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)			

科目名	初等音楽Ⅱ		担当教員	悪原　至、荒木　善子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE103
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽表現技能力を付ける。 到達目標は、A部門では正しい発声法をつかみ歌うことが出来る。鑑賞の仕方をつかむことが出来る。B部門では、二部形式の創作が出来る。ソプラノリコーダーのアンサンブル（ピアノ伴奏付き）の演奏が出来る。				
授業の概要	音楽の教科書より様々な音楽要素を取り上げる。A部門は【歌唱・鑑賞】、B部門は【創作・器楽】での活動を行う。それらを通して響きあう音楽の喜びを体得する。本授業はオムニバス形式で行う。歌唱・鑑賞・創作・器楽のいずれかにおいて、提出物が期限までに出されなかった場合や試験などを放棄した場合はすべて失格と判定する。				

授業計画	
第1回	A部門歌唱：姿勢と呼吸の仕方。 B部門器楽：リコーダーの復習とコードネームの復習。（A部門担当：荒木、 B部門担当：悪原）
第2回	A部門歌唱：スタッカート唱の仕方。指揮図形の確認と表現。
第3回	A部門歌唱：歌詞に込められた気持ちを感じ取り歌う。歌詞の深意と音楽の繋がりについてグループ毎に読み取り、それらを歌唱表現に生かす工夫をする。その後グループ合唱発表を行い、交流する。＜5・6年 合唱教材より＞第3回から第8回まで継続して取り組む。第8回に合唱発表を行う。
第4回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」を詩の情景や心情を理解し曲想豊かに歌唱する。＜5・6年 共通教材より＞パート毎の譜読と歌唱。
第5回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」＜5・6年 共通教材より＞毎時の発声で掴んだ発声法を元に、グループ毎に目標を定め練習し発表する。各人が発表に対する感想を書きクラスで共有する。
第6回	A部門鑑賞：拍子の違いと旋律、様子を思い浮かべ聴く。
第7回	A部門鑑賞：色々な音色、響きを感じて聴く。
第8回	A部門鑑賞：日本や世界の国々の音楽に親しむ。 歌唱：合唱発表
第9回	B部門創作：楽曲構成要素の解説と動機の創作、更に小楽節の創作から大楽節（一部形式）の創作を行う。
第10回	B部門創作：自作の動機による、一部形式の創作を行う。
第11回	B部門創作：一部形式から二部形式への発展の方法を示し、二部形式の創作を行う。
第12回	B部門創作：二部形式を完成させた後、楽譜としての約束事をもれなく記入し、楽譜を正しく完成させる。（楽譜の提出）
第13回	B部門器楽：教材楽譜の配布と、譜読み等を行う。
第14回	B部門器楽：表現の方向性の統一と、アンサンブルとしての調整を行う。
第15回	B部門器楽：アンサンブルとしてのまとめを行い、発表（試験を兼ねる）を行う。

事前学修	0.5時間	①リコーダー、コードネームの復習。②～⑧各回の＜＞に記載の曲頁を読む。⑤各パートの音を、リコーダーで確認し歌ってくる⑨教科書創作の項を見る。⑩⑪配付プリントに目を通す。 ⑫音楽用語、記号の復習。 ⑬リコーダーの運指の確認。⑭配布楽譜に目を通し運指等の確認。 ⑮表現方法を楽譜で確認練習。
事後学修	0.5時間	①～⑧声作りのため発声を毎日行う。①リコーダー及びコードネームの確認と復習。②指揮の確認。③④⑤各パートくり返し練習。⑥～⑧プリントの読み直し。⑨～⑫毎回指示される次回までの課題の実行。⑬個人パートの譜読みの徹底。⑭アンサンブルの徹底。⑮器楽として行ったアンサンブルへの反省。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	A部門：ポートフォリオを毎時チェックし返却する。B部門：提出作品には注意書きやコメントを記入して返却する。希望者には個々に直接指導を行う。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	A部門：(1)グループ発表に向けた活動および技能10%、(2)ポートフォリオ40%　の完成度により評価する
上記以外の試験・平常点評価	50%	B部門：(1)創作楽譜25%、(2)実技発表25%　の完成度により評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学生の音楽１～6	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	(株)教育芸術社	978-4-87788-816-9	なし
参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)			

科目名	初等音楽Ⅱ			担当教員	柴田　恭男、杉山　加保里	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED3SRE103
期待される学修成果	教科教育　自己形成					
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	音楽表現技能力を付ける。 到達目標は、A部門では正しい発声法をつかみ歌うことが出来る。鑑賞の仕方をつかむことが出来る。B部門では、二部形式の創作が出来る。ソプラノリコーダーのアンサンブル（ピアノ伴奏付き）の演奏が出来る。					
授業の概要	音楽の教科書より様々な音楽要素を取り上げる。A部門は【歌唱・鑑賞】、B部門は【創作・器楽】での活動を行う。それらを通して響きあう音楽の喜びを体得する。本授業はオムニバス形式で行う。歌唱・鑑賞・創作・器楽のいずれかにおいて、提出物が期限までに出されなかった場合や試験などを放棄した場合はすべて失格と判定する。					

授業計画	
第1回	A部門歌唱：姿勢と呼吸の仕方。 B部門器楽：リコーダーの復習とコードネームの復習。（A部門担当：杉本、 B部門担当：柴田）
第2回	A部門歌唱：スタッカート唱の仕方。指揮図形の確認と表現。
第3回	A部門歌唱：歌詞に込められた気持ちを感じ取り歌う。歌詞の深意と音楽の繋がりについてグループ毎に読み取り、それらを歌唱表現に生かす工夫をする。その後グループ合唱発表を行い、交流する。＜5・6年 合唱教材より＞第3回から第8回まで継続して取り組む。第8回に合唱発表を行う。
第4回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」を詩の情景や心情を理解し曲想豊かに歌唱する。＜5・6年 共通教材より＞パート毎の譜読と歌唱。
第5回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」＜5・6年 共通教材より＞毎時の発声で掴んだ発声法を元に、グループ毎に目標を定め練習し発表する。各人が発表に対する感想を書きクラスで共有する。
第6回	A部門鑑賞：拍子の違いと旋律、様子を思い浮かべ聴く。
第7回	A部門鑑賞：色々な音色、響きを感じて聴く。
第8回	A部門鑑賞：日本や世界の国々の音楽に親しむ。 歌唱：合唱発表
第9回	B部門創作：楽曲構成要素の解説と動機の創作、更に小楽節の創作から大楽節（一部形式）の創作を行う。
第10回	B部門創作：自作の動機による、一部形式の創作を行う。
第11回	B部門創作：一部形式から二部形式への発展の方法を示し、二部形式の創作を行う。
第12回	B部門創作：二部形式を完成させた後、楽譜としての約束事をもれなく記入し、楽譜を正しく完成させる。（楽譜の提出）
第13回	B部門器楽：教材楽譜の配布と、譜読み等を行う。
第14回	B部門器楽：表現の方向性の統一と、アンサンブルとしての調整を行う。
第15回	B部門器楽：アンサンブルとしてのまとめを行い、発表（試験を兼ねる）を行う。

事前学修	0.5時間	①リコーダー、コードネームの復習。②～⑧各回の＜＞に記載の曲頁を読む。⑤各パートの音を、リコーダーで確認し歌ってくる⑨教科書創作の項を見る。⑩⑪配付プリントに目を通す。 ⑫音楽用語、記号の復習。 ⑬リコーダーの運指の確認。⑭配布楽譜に目を通し運指等の確認。 ⑮表現方法を楽譜で確認練習。
事後学修	0.5時間	①～⑧声作りのため発声を毎日行う。①リコーダー及びコードネームの確認と復習。②指揮の確認。③④⑤各パートくり返し練習。⑥～⑧プリントの読み直し。⑨～⑫毎回指示される次回までの課題の実行。⑬個人パートの譜読みの徹底。⑭アンサンブルの徹底。⑮器楽として行ったアンサンブルへの反省。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	A部門：ポートフォリオを毎時チェックし返却する。B部門：提出作品には注意書きやコメントを記入して返却する。希望者には個々に直接指導を行う。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	A部門：(1)グループ発表に向けた活動および技能10%、(2)ポートフォリオ40%　の完成度により評価する
上記以外の試験・平常点評価	50%	B部門：(1)創作楽譜25%、(2)実技発表25%　の完成度により評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学生の音楽１～6	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	(株)教育芸術社	978-4-87788-816-9	なし
参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)			

科目名	初等音楽Ⅱ		担当教員	高木　彩也子、小見山　純一	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE103
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽表現技能力を付ける。 到達目標は、A部門では正しい発声法をつかみ歌うことが出来る。鑑賞の仕方をつかむことが出来る。B部門では、二部形式の創作が出来る。ソプラノリコーダーのアンサンブル（ピアノ伴奏付き）の演奏が出来る。				
授業の概要	音楽の教科書より様々な音楽要素を取り上げる。A部門は【歌唱・鑑賞】、B部門は【創作・器楽】での活動を行う。それらを通して響きあう音楽の喜びを体得する。本授業はオムニバス形式で行う。歌唱・鑑賞・創作・器楽のいずれかにおいて、提出物が期限までに出されなかった場合や試験などを放棄した場合はすべて失格と判定する。				

授業計画	
第1回	A部門歌唱：姿勢と呼吸の仕方。 B部門器楽：リコーダーの復習とコードネームの復習。（A 部門担当：高木、 B 部門担当：小見山）
第2回	A部門歌唱：スタッカート唱の仕方。指揮図形の確認と表現。
第3回	A部門歌唱：歌詞に込められた気持ちを感じ取り歌う。歌詞の深意と音楽の繋がりについてグループ毎に読み取り、それらを歌唱表現に生かす工夫をする。その後グループ合唱発表を行い、交流する。＜5・6年 合唱教材より＞第3回から第8回まで継続して取り組む。第8回に合唱発表を行う。
第4回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」を詩の情景や心情を理解し曲想豊かに歌唱する。＜5・6年 共通教材より＞パート毎の譜読と歌唱。
第5回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」＜5・6年 共通教材より＞毎時の発声で掴んだ発声法を元に、グループ毎に目標を定め練習し発表する。各人が発表に対する感想を書きクラスで共有する。
第6回	A部門鑑賞：拍子の違いと旋律、様子を思い浮かべ聴く。
第7回	A部門鑑賞：色々な音色、響きを感じて聴く。
第8回	A部門鑑賞：日本や世界の国々の音楽に親しむ。 歌唱：合唱発表
第9回	B部門創作：楽曲構成要素の解説と動機の創作、更に小楽節の創作から大楽節（一部形式）の創作を行う。
第10回	B部門創作：自作の動機による、一部形式の創作を行う。
第11回	B部門創作：一部形式から二部形式への発展の方法を示し、二部形式の創作を行う。
第12回	B部門創作：二部形式を完成させた後、楽譜としての約束事をもれなく記入し、楽譜を正しく完成させる。（楽譜の提出）
第13回	B部門器楽：教材楽譜の配布と、譜読み等を行う。
第14回	B部門器楽：表現の方向性の統一と、アンサンブルとしての調整を行う。
第15回	B部門器楽：アンサンブルとしてのまとめを行い、発表（試験を兼ねる）を行う。

事前学修	0.5時間	①リコーダー、コードネームの復習。②～⑧各回の＜＞に記載の曲頁を読む。⑤各パートの音を、リコーダーで確認し歌ってくる⑨教科書創作の項を見る。⑩⑪配付プリントに目を通す。 ⑫音楽用語、記号の復習。 ⑬リコーダーの運指の確認。⑭配布楽譜に目を通し運指等の確認。 ⑮表現方法を楽譜で確認練習。
事後学修	0.5時間	①～⑧声作りのため発声を毎日行う。①リコーダー及びコードネームの確認と復習。②指揮の確認。③④⑤各パートくり返し練習。⑥～⑧プリントの読み直し。⑨～⑫毎回指示される次回までの課題の実行。⑬個人パートの譜読みの徹底。⑭アンサンブルの徹底。⑮器楽として行ったアンサンブルへの反省。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	A部門：ポートフォリオを毎時チェックし返却する。B部門：提出作品には注意書きやコメントを記入して返却する。希望者には個々	

	に直接指導を行う。

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	A部門：(1)グループ発表に向けた活動および技能10%、(2)ポートフォリオ40%　の完成度により評価する
上記以外の試験・平常点評価	50%	B部門：(1)創作楽譜25%、(2)実技発表25%　の完成度により評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学生の音楽１～6	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	(株)教育芸術社	978-4-87788-816-9	なし
参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)			

科目名	初等音楽Ⅱ		担当教員	悪原　至、杉山　加保里	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE103
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	音楽表現技能力を付ける。 到達目標は、A部門では正しい発声法をつかみ歌うことが出来る。鑑賞の仕方をつかむことが出来る。B部門では、二部形式の創作が出来る。ソプラノリコーダーのアンサンブル（ピアノ伴奏付き）の演奏が出来る。				
授業の概要	音楽の教科書より様々な音楽要素を取り上げる。A部門は【歌唱・鑑賞】、B部門は【創作・器楽】での活動を行う。それらを通して響きあう音楽の喜びを体得する。本授業はオムニバス形式で行う。歌唱・鑑賞・創作・器楽のいずれかにおいて、提出物が期限までに出されなかった場合や試験などを放棄した場合はすべて失格と判定する。				

授業計画	
第1回	A部門歌唱：姿勢と呼吸の仕方。 B部門器楽：リコーダーの復習とコードネームの復習。（A部門担当：杉山、 B部門担当：悪原）
第2回	A部門歌唱：スタッカート唱の仕方。指揮図形の確認と表現。
第3回	A部門歌唱：歌詞に込められた気持ちを感じ取り歌う。歌詞の深意と音楽の繋がりについてグループ毎に読み取り、それらを歌唱表現に生かす工夫をする。その後グループ合唱発表を行い、交流する。＜5・6年 合唱教材より＞第3回から第8回まで継続して取り組む。第8回に合唱発表を行う。
第4回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」を詩の情景や心情を理解し曲想豊かに歌唱する。＜5・6年 共通教材より＞パート毎の譜読と歌唱。
第5回	A部門歌唱：共通教材「こころのうた」＜5・６年 共通教材より＞毎時の発声で掴んだ発声法を元に、グループ毎に目標を定め練習し発表する。各人が発表に対する感想を書きクラスで共有する。
第6回	A部門鑑賞：拍子の違いと旋律、様子を思い浮かべ聴く。
第7回	A部門鑑賞：色々な音色、響きを感じて聴く。
第8回	A部門鑑賞：日本や世界の国々の音楽に親しむ。 歌唱：合唱発表
第9回	B部門創作：楽曲構成要素の解説と動機の創作、更に小楽節の創作から大楽節（一部形式）の創作を行う。
第10回	B部門創作：自作の動機による、一部形式の創作を行う。
第11回	B部門創作：一部形式から二部形式への発展の方法を示し、二部形式の創作を行う。
第12回	B部門創作：二部形式を完成させた後、楽譜としての約束事をもれなく記入し、楽譜を正しく完成させる。（楽譜の提出）
第13回	B部門器楽：教材楽譜の配布と、譜読み等を行う。
第14回	B部門器楽：表現の方向性の統一と、アンサンブルとしての調整を行う。
第15回	B部門器楽：アンサンブルとしてのまとめを行い、発表（試験を兼ねる）を行う。

事前学修	0.5時間	①リコーダー、コードネームの復習。②～⑧各回の＜＞に記載の曲頁を読む。⑤各パートの音を、リコーダーで確認し歌ってくる⑨教科書創作の項を見る。⑩⑪配付プリントに目を通す。 ⑫音楽用語、記号の復習。 ⑬リコーダーの運指の確認。⑭配布楽譜に目を通し運指等の確認。 ⑮表現方法を楽譜で確認練習。
事後学修	0.5時間	①～⑧声作りのため発声を毎日行う。①リコーダー及びコードネームの確認と復習。②指揮の確認。③④⑤各パートくり返し練習。⑥～⑧プリントの読み直し。⑨～⑫毎回指示される次回までの課題の実行。⑬個人パートの譜読みの徹底。⑭アンサンブルの徹底。⑮器楽として行ったアンサンブルへの反省。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	A部門：ポートフォリオを毎時チェックし返却する。B部門：提出作品には注意書きやコメントを記入して返却する。希望者には個々に直接指導を行う。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	A部門：(1)グループ発表に向けた活動および技能10%、(2)ポートフォリオ40%　の完成度により評価する
上記以外の試験・平常点評価	50%	B部門：(1)創作楽譜25%、(2)実技発表25%　の完成度により評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学生の音楽１～6	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎	(株)教育芸術社	978-4-87788-816-9	なし
参考資料	小学校学習指導要領解説　音楽編(教育芸術社)			